

第6回秀郷流親交会

「鎌倉殿を支えた秀郷流武士たち」

歴史作家：水野拓昌先生

* * * * *

《鎌倉殿の乳母》 → 頼朝乳母は秀郷流

寒河尼：頼朝挙兵時に14歳末子つれて参上＝小山氏の態度を示す

比企尼：頼朝の流人時代(20年)に仕送り。比企能員を頼家後見役に推薦

山内尼：山内首藤経俊の助命泣訴→赦免され、御家人として活躍

『吾妻鏡』には、ほかに、三善康信の伯母、摩々尼に関する記述もあるが…

→人物の詳細は不明。摩々尼の記述には矛盾点も(頼朝の父の乳母?)

	頼朝乳母に関する『吾妻鏡』の記述	年月日
三善康信の伯母	三善康信の母は頼朝の乳母の妹。その縁で康信は月に3度、使者を送って京の情報を伝える	1180年6月19日
寒河尼 小山政光の妻 1137～1228年	頼朝の乳母である八田宗綱息女が末子を連れて隅田宿参上 朝光の母(政光の後妻)を下野・寒河郡、網戸郷の地頭に 91歳で死去。頼朝、政子に特に大切に扱われていた	1180年10月2日 1187年12月1日 1228年2月4日
山内尼	山内首藤経俊の老母、斬罪内定に泣きながら参上 夫・山内首藤俊通は平治の乱で戦死したことなどを説く	1180年11月26日
比企尼 比企遠宗(掃部允) の妻	比企能員の義母は初めからの頼朝の乳母。頼朝が流されてから20年世話をした。甥の能員を養子として推薦、頼家の乳母夫になった 尼の誘いで頼朝、政子が納涼の遊びに来た。一日中遊宴 庭に白菊が咲き、頼朝、政子が遊びに来た。一日中酒宴	1182年10月17日 1186年6月16日 1187年9月9日
摩々尼 早河荘の女性 1101年～?	頼朝に乳を与えた若い女性が今では相模・早河荘に住む 早河荘の年貢は免除。頼朝が(摩々尼を)あわれむ 義朝の乳母が参上。頼朝に早河荘の知行を命じられる 義朝の乳母・摩々局が早河荘から参上。92歳	1181年閏2月7日 1181年11月29日 1187年6月13日 1192年2月5日

《秀郷流武芸と鎌倉殿》 頼朝も秀郷流武芸に関心示す

●頼朝と西行(佐藤義清)の出会い

※佐藤氏＝秀郷流嫡流意識の強い京武者

1186年8月15日：鶴岡八幡宮・放生会⇒境内にいた老僧に声をかける

(西行はこの日が放生会で頼朝参詣を予想していた?)

頼朝 西行を御所に招き懇談。歌道、弓馬について尋ねる

西行「出家したとき秀郷以来相伝の兵法の書は燃やし、罪業のもとになるので全て忘れま
した」と言いつつ、一晚語り明かす ⇒ 退出は翌日正午ごろ

会談内容は51年後の記事で判明。

1237年7月19日：北条時頼が初めての流鏑馬のため練習

北条泰時が名人・海野幸氏を招く

海野幸氏「西行は、弓を持つ時、一文字(水平?)ではなく、拳で押し立てて持つべきと
言った。流鏑馬で矢を挟む時、一文字は礼にかなわないと」

「よくよく考えると(西行の言うことは)もつともで、一文字は多少遅い。

弓の上を十分上げて、すぐに射ることができるように持つのがよい」

このとき、感心を示したのは、

下河辺行平、工藤景光、和田義盛、望月重隆、藤沢清親、諏訪盛澄、愛甲季隆

(※諏訪盛澄はこのとき罪人扱いのはずで矛盾?)

●放生会の流鏑馬

西行との出会いから1年後、放生会で流鏑馬(8月15日)

※後に放生会8月15日、流鏑馬8月16日

※放生会は信心深い頼朝にとって重要儀式

1187年8月15日：鶴岡八幡宮・放生会の流鏑馬

罪人? 諏訪盛澄(金刺盛澄)の登場 = 秀郷朝臣の秘訣を伝える者

※諏訪氏、金刺氏は秀郷流ではなく諏訪神官の家系

⇒この者を断罪したら流鏑馬の一流が長く廃れると悩み、急遽召し出す悪馬を召し出す。

舎人が「この馬は的の前で必ず右の方へ駆けます」

諏訪盛澄は 馬の動きを制御して成功。

次に、5寸の串に挟んだ小さなカワラケ(土器)を3本立てる ⇒ ことごとく命中

次に、その3本の串を射るよう命じられる ⇒ 5寸の串を射切る

頼朝は諏訪盛澄の罪を許す ⇒ 以後、弓の名人として活躍

●小山朝政邸での流鏑馬検討会

1194年10月9日：朝政邸に頼朝ほか弓のうまい御家人が集まり、弓馬の術について討議
：書記官(記録係)も同行

翌年の上洛の際、住吉大社で流鏑馬を披露する予定。

坂東武士として、関西の者に笑われないようにと準備。

朝政邸の出席者は、いずれも弓の名手、その家系の武士。

- ・秀郷流藤原氏 ： 小山朝政、結城朝光、下河辺行平(小山氏系)
 那須光助(光資、資光？那須5代)
- ・そのほかの藤原氏 ： 氏家公頼(宇都宮氏・宇都宮朝綱の子。橘氏出身説あり)
 宇佐美祐成(工藤祐経の弟)、工藤行光(藤原南家・工藤氏)
- ・源氏系 ： 武田有義、小笠原長清(いずれも甲斐源氏)
- ・平氏系 ： 和田義盛(侍所別当)、榛谷重朝(秩父一族)
 曾我祐信(曾我兄弟養父、千葉氏系？)
- ・そのほかの氏族 ： 小鹿島公業(橘氏)、愛甲季隆(横山党)
- ・旧木曾義仲家臣 ： 諏訪盛澄(諏訪神官・金刺氏)、藤沢清親(諏訪氏系？)
 望月重澄(重隆？滋野氏系)、海野幸氏(滋野氏系)

●秀郷流武芸と頼朝のエピソード

1189年7月8日：奥州合戦の準備

旗の新調 ➡ 絹は小山朝政が進上。先祖・藤原秀郷が朝敵・平将門を滅ぼした吉例

鎧の献上 ➡ 下河辺行平(朝政の従兄弟)兜の後に笠識(敵味方を識別する札)

頼朝「これは袖に付けるのかが通例ではないか」

行平「これは先祖秀郷朝臣の吉例です。味方は誰が先陣か知るのは」

